

2017.1.10

平成 28 年度（第 9 回）学術研究集会のご案内

日本マイクロカウンセリング学会（Japanese Association of Microcounseling:JAMC）では以下のスケジュールで学術研究集会を開催します。

全体テーマ「マイクロカウンセリングの世界—その基礎と多様性—」

プログラム 10:00~12:00 研究発表

12:00~13:30 昼食

13:30~15:00 基調講演

講師 石山一舟先生(ブリティッシュコロンビア大學教育学部準教授)

演題 「マイクロカウンセリングと森田療法」

15:10~17:30 ラウンドテーブルセッション 「実践におけるマイクロ
カウンセリング技法の活用」

スーパーバイザー：福原真知子；玉瀬耕治

全体テーマは「マイクロカウンセリングの世界—その基礎と多様性」です。当該学会は研究会創始（1984年）の段階から、「身につくマイクロカウンセリング」をモットーにしてきました。これは単に技法がこなせるというのではなく、「理論と実際」の統合が納得して運ばれ、それが現場で生きるように、との基本的コンセプトをそなえております。このコンセプトは継続的に、マイクロカウンセリング研修にも、研究にもいかされるべく計画してまいりました。

基調講演には、石山一舟先生(ブリティッシュコロンビア大學)にお願いしました。テーマは「マイクロカウンセリングと森田療法」です。先生は先にマイクロカウンセリングを学ばれ、現在は森田療法の専門家として内外で活躍されております。森田療法は日本で開発され、古くからいられていたものですが、いまや以前にも増し、諸外国の心理療法家の関心をあつめるところとなっております。それはなぜでしょうか。近年特に洋の東西を問わず人間のウェルネスに有効な手段が模索されていることも一因と思われます。

マイクロカウンセリングが心理療法やカウンセリングにおける基礎的なコミュニケーションスタイルを提供するといわれる中、これが森田療法の活用(理論と実際)にどのように組み込まれているかを事例をあげて説明していただき、あらためてマイクロカウンセリングを考えてみたいと思っています。なお氏は、昨夏横浜で開催された国際心理学会議招聘シンポジウム(テーマは Microcounseling all over the World-Basis for Counseling and Psychotherapeutic Intervention)において当該学会を代表する一人として登壇されました。

ラウンドテーブルセッションにおいてはカウンセリング実践に関わっておられる方々の多

様な視点から、マイクロカウンセリングが現場でどのように活用されているかをお話いただき、Audio-visual 手法によるフィードバックとスーパービジョンを経て、フロアへの討論に展開するという運びを考えております。テーマは「実践におけるマイクロ技法の活用」です。

具体的には教育、医療、企業の現場での実践事例にもとづくロールプレイ・話題提供をお願いしています。

万障お繰り合わせの上、お出かけください。お申し込みは別紙、ダウンロードできます。会員外のご参加も歓迎いたします。

なお本学術研究集会の前日(3月4日、土)には平成28年度第二回研修会・基礎トレーニング I,II を開始します。別紙ご案内を参照の上、申し込み用紙はダウンロードできます。お誘いあわせの上、ご参加ください。